

2022年6月5日

第477号

毎月5の日発行
定価1部10円 年500円千共
組合員の購読料は組合費の中に含む

林野労組

発行所
全国林野関連労働組合
東京都千代田区霞が関1-2-1
☎ 03-3519-5981
Fax 03-3519-5984

直面する課題について議論

全国書記長会議を対面で開催

本部は、5月13日、東京・林野会館で、全国書記長会議を開催しました。国有林野事業の推進に向けた課題などについて議論を行いました。

冒頭、中村委員長から、「来る組合員の中には、『政策実現の参議院選挙を前に、『なぜのために、自民党の方がいいのではないか』と思う方も出てきている。林野労組として当局と交渉するに当たっては、当局提案を修正させ、要求を認めさせるためにも『対決コミ報道が行われる中、若い姿勢』を持つ必要がある、立



対面での開催となった、全国書記長会議

憲民主党を基軸に連携する必要がある」と、挨拶しました。その後、鳴川書記長より行われた、議案提案を踏まえた質疑応答に入りました。

一般林政課題について

盛土対策法で規制対象となる盛土の規模・形状について、森林作業道や集材路の作設が規制対象になるか質問が出されました。

新規採用者130人の確保に向けて

定年延長と新規採用者数との関係について、今後、定年退職者が出ない年は、欠員が一時的に減り、新規採用を確保しつらくなる懸念があるとの意見が出されました。

一人ひとりが尊重される多様な社会を！

第93回メーデー中央大会が開催される

4月29日、代々木公園において、第93回メーデー中央大会が開催されました。集合形式による開催は3年ぶり、盛大に開催されました。

当日は、あいにくの小雨模様となりましたが、連合の組合員をはじめ、関係団体、NPO・NGOなどの諸団体から4800人の仲間が集まりました。森林労連、林野労組からは、18人の組合員が参加しました。

最初に、芳野友子実行委員長（連合会長）は、「ロシアによるウクライナ軍事侵攻により「子どもを含む多くの民



代々木公園に集結した仲間

間人が無差別に攻撃され、平和なくらしが壊されている。ロシアによる軍事侵攻は、国際平和と秩序に対する暴挙で、経済活動の停滞、資源高や供給制約、円安などによる物価上昇の影響が懸念される今こそ、底上げ・底支え・格差是正、人への投資、社会的セーフティネットの強化につながる政策・制度を通じて、雇用とくらしを守り、将来の希望につながることを重要。春季生活闘争において、これまで積み出してきた賃上げの流



挨拶をする、中村委員長

国有林野事業の推進に向けた取り組みについて

本部は、「各府省等が実施する『意思確認』の内容を踏まえ、内閣人事局及び人事院が2022年末を目処に『2024年度における定員及び級別定数措置』に関する考え方を提示することとされている。これを踏まえ、2022年度中に、2024年度採用予定数が各府省等において決定される。林野労組として、採用者数は最低130人を譲らない姿勢で取り組を進めていく」と、回答しました。

システムの不具合に対する林野庁の対応には問題があり、本部での交渉の強化を」との意見がありました。

本部は、「人材情報統合システムの不具合解消は当然のことながら、目下の事務が滞っていることから、当面の対応策を示す必要があることを

これを最後まで継続させ、日本全体へ広げていかなければならない」と挨拶しました。

また、航空産業で働く皆川知果さんからコロナ禍の影響を受けた厳しい労働環境について、学校司書として働く橋爪ゆりさんから非正規雇用で働く者にとっての労働運動について、映画作成業界で働くSAORIさんからフリーランスで仕事を請け負う者がかかる理不尽な現状について、呼びかけがありました。

さらに、ロシアの軍事侵攻により多くの被害が発生しているウクライナ出身のドゥバニコバ・ヤンナさんから、平和への切実な訴えがありました。

最後に、メーデー宣言（案）を提案し、満場の拍手



フラッグを振って団結アピール

で採択されました。森林労連参加者は、2022春闘勝利を目指して取り組んでいくことを確認しました。



本部（組織部）は、4月から中央常任委員との学習会を始めた。労働者のために書かれた文献や月刊誌を読み合わせ、疑問点や感想等を出し合いながら、学習と交流を図っている▼先日は、月刊誌「ひろばユニオン」に掲載された、「復帰50年 沖繩が『日本』を問う」と題した報告を読み進めた。今年で日本復帰50年となる沖繩には、50年経っても変わらない、米軍基地があるが故に続く苦悩がある。そのことに国民はどのように向き合ってきたのか。報告の中では、「沖繩の基地負担を『不平等』と捉える人は79%いたが、自分の住む地域への移設は69%が反対」との共同通信の全国調査結果が紹介されていた。学習会の中では、「おかしいけど、どうすればいいかわからない」といった反応。一方、政府が進める原発立地や使用済核燃料処理施設の問題でも、似たような構図が作られていると話合った▼職場実態では、「休みたたくても、休み明けの業務を負担に感じ、年休取得を躊躇してしまう」といった声が出された。「賃金論や諸権利確立の歴史」といった原理原則を持ち出しても、すぐには納得出来ない職場の実態がありそうだ▼今後も中央常任委員のみならず、労働者としての思想性を高める学習と交流が図られる学習会となるよう、「学びの時間」を共有したい。(inoso)

平和で安心した生活ができる社会を実現しよう!

5月上旬頃に、各地でメーデーが開催されました。新型コロナウイルス感染拡大が小康してきた事もあり、久々の集合形式となった地域もありました。各地の地本・分会のメーデー参加の様子を、まとめてご紹介します。

北海道地本

第93回全道メーデー

【札幌支部・高橋通信員】

5月1日、第93回全道メーデーが、動画配信形式で開催



ガンパロー三唱 (全道メーデー)

「全世界的に戦争やコロナ感染症が不安や分断を生み出し差別・偏見・不振が人権を攻撃している。今こそ団結と連携の絆を強めよう」と訴えました。

特別決議は「集团的労使関係の輪を広げ、曖昧な雇用で働く者への権利保護の実現を求め、特別決議」「ウクライナへの軍事侵攻に反対しロシア軍の即時撤退を求める特別決議」「第26回参議院選挙勝利に向けた特別決議」の3本が読み上げられ、メーデー宣言とともに連合北海道HP上で確認を求めました。

次に、立憲民主党徳永エリ参議院議員から「参議院選挙まで2ヶ月余り。子を持つ母親として、次世代にツケを回したくない。低賃金では結婚し子どもを産み育てることも出来ない。また、国の借金や食料安全保障等、課題は山積している。今回の選挙戦「次世代へ繋ぐ安心の未来」をキャッチフレーズに闘っていく」と挨拶がありました。



挨拶をする徳永エリ議員

登壇のもと、杉山会長による団結ガンパロー三唱により式典を終了しました。

旭川地区メーデー

【旭川支部・竹内通信員】

5月1日、第93回旭川地区メーデー大会が旭川市民文化会館で開催されました。



旭川地区メーデー

冒頭、三村会長から、「メーデーは、本来は103回になるが、日中戦争、太平洋戦争時の10年間、開催されていなかった。最後に、徳永エリ参議院議員の挨拶がありました。メーデー宣言、第26回参議院選挙勝利に向けた特別決議などは参加者全員の拍手で採択されました。

最後に、北海道上川総合振興局佐藤局長、立憲民主党北海道第6区総支部西川総支部長他、来賓の皆さんと、参加者全員で団結ガンパローを行い、閉会しました。

この後メーデー宣言、各種決議案等が採択されました。

来賓の小熊衆議院議員からは「この夏、参議院選挙が行われる。すべての仲間、同志が当選するよう尽力したい。まだまだ厳しい時代が続くが、それぞれの職場で奮闘いただき、ともに頑張っていきたい」と激励の祝辞がありました。

式典は式次第のとおり進み、声量を抑えたコロナ対応のシユプレヒコールを行い、団結と連帯を再確認し、スロガンとメーデー宣言が採択されました。最後に、ガンパロー三唱で閉会しました。



天竜川河川敷での開催

中部地本

第93回長野県中央メーデー

【中部地本・宮下通信員】

5月1日連合長野等が主催する実行委員会は、長野市内の会場とWEBを併用し、第93回長野県中央メーデーを開催しました。会場には労組代表者70名が出席し、WEBでは総勢1500名以上が参加しました。

また、長野県職労の北原書記長による特別報告ではコロナ対応に関わる職員数に業務が追いついていない現状や、非正規公務員の「問題の背景には行政改革の名を借りた人員削減や統廃合がある」とし、自治労として公共サービスへ投資することを交渉で取り組んでいることが報告されました。

明治100年の森が消える!?

神宮外苑再開発計画

都心のオアシス、明治神宮外苑。ここに新たな再開発計画が立ち上がっている。1000本近い樹木が伐採される計画であり、賛否の議論が巻き起こっている。

明治神宮は、1920年に建立された。神宮の社殿を包む「永遠の杜」が、当時の林学者らにより、100年後の成林状況を緻密に計算された上で植林されたことは有名だ。全国から

およそ10万本の献木が建立のために集められた。今般、伐採計画が上がっているのは、神宮外苑の並木。これも献木によって整備されたものだ。老朽化したラグビー場の立て替えのほか、外苑

地区の再開発のため、これらの木々を伐採するという。住宅街でもあるこの地域には、東京都風致地区条例により、建築物の高さを15mまでと規制していたが、東京都が、東京オリピック・パラリンピックを契機に基準を緩めたため、開発推進が可能となった。

開発の目的は、「世界に誇れるわが国のスポーツの拠点の形成」とのことだが、住民のほか、ICOMS日本支部からも、「コロナ時代に逆境する高密な都市再開発は再考すべき」「ラグビー場は現地建て

替えとし、神宮外苑の文化的景観を守っていくべき」との声が上がっている。東京都は「事業者から事業を進めると、聞いてみると、他人様の様な立場であるが、都が自ら制定した条例を、都の都合により変更している。これでは、地権者に対する利益誘導を行っている」と捉えられ

都会の中の貴重な森。適切な保全を求めたい。【教宣部・遠藤】

関東地本

第93回函館地区メーデー

【佐藤通信員・会津分会】

4月29日、鶴ヶ城公園内の多目的広場において「第93回函館地区メーデー」が開催されました。

冒頭、寺岡実行委員長から「東日本大震災から11年が経過したが、風化させることなく、復興・創生に向けて全員で全力を尽くさなければならぬ。2022春闘は、この

コロナ禍において企業業績は二極化しており厳しい状況での取り組みとなっている。メーデーは『働く者の地位向上を求め権利を主張するための日であり、労働者が立ち上

る日』、労働者が抑圧され強制された歴史を忘れることなく、メーデーを大切に、継続してつなげていきたい」と挨拶がありました。



函館地区メーデー

第93回浜松地域、

第93回浜松地区メーデー

4月24日、「第93回浜松地域、浜北・北遠地区メーデー」が天竜川河川敷で開催されました。

新型コロナウイルスの感染防止への配慮、生憎の雨の中での開催となり、参加者は例年の約10分の1という少人数での開催でした。また、式典

のみの開催で、例年は家族や親子で楽しめるメーデーですが、催し物や各単組による工夫をこらした出店等もなく寂しいものとなりました。

そうした中ですが、今年7月の参議院選挙に向け、候補者や支援者の挨拶と決意表明があり、「額に汗して働くものが報われる社会、働くものが主役の社会」を目指して地域全体で参議院選挙を闘うことを確認しました。

「全ての働く仲間の連帯で格差社会をなくす」取り組みを進めることを確認し閉会しました。

来賓の杉尾ひでや参議院は、失われた30年と言われ、所得が全く増えていない現実について、「雇用が破壊され、非正規雇用者が約3割増えたことが原因。これは政治の責任であり、こういう政治こそ変えなければならぬ」とし、「夏の参院選は、極めて重要な選挙だ。憲法改正の動きや翼賛型の政治を、進めてはならない」と次期選挙への協力を訴えました。



WEB開催となった、長野県中央メーデー